

近況報告

日々新たな思い

昭和五十八年退官 高橋 正

私が東北大学を退官してから約二十年になる。退官後務まった職を離れてからも十年近くである。職を退いてから日を経るにつれて東北大学の電気系に関する情報に疎くなっていく。私の乏しい情報源は、東北大学学報(人事・研究費・行事)、東北大学電通談話会記録及び二、三の学会誌である。この様な乏しい情報のものでのものであるが、私の感想を述べて見たい。

日本の将来が展望し難いなかで、大学に対する期待が大きくなるばかりである。この様な情勢の下で電気通信研究所に二十一世紀情報通信研究開発センターが設置され、電気系の研究が情報・電気・電子分野でのセンター・オブ・エクセレンス(COE)として選出されたことは、社会の我が電気系に対する評価が高く期待の大なる事を示している。また、未来科学技術共同研究センターにおける電気系教官の活躍等は社会の付託に応えんとするもので大変心強い。

これに引き換え、私は忸怩たるものがあるが、日々太極拳を演じ、読書に明け暮れる毎日である。太極拳のお蔭か体調はまずまずである。読書に際し、名著(私にとって)に遭う毎に目の鱗が取れて新しい世界が広がり、日々新たな思いである。物事の理を知りその解明されて行くプロセスを辿り心躍る思いである。近頃特に注目しているのは遺伝子に関する分野である。二、三例を挙げると、○「時間・愛・記憶」の遺伝子を求めて(ワイナー/早川書房)、○天才と分裂病の進化論(ホロビン/新潮社)、○痴呆の謎を解く(タンジ/文一総合出版)等である。これ等の書で述べられている研究者の執念と実行力に心打たれる。

同窓生田中耕一氏のノーベル賞受章は驚きであるとともに大いなる喜びである。東北大学電気系の隆盛を願ひ、同窓生諸兄のご活躍とご健勝を祈る。

退官してから十五年

昭和六十三年退官 穴山 武



昭和六十三年春、定年を一年前にして東北大学を退官し八戸高専に赴任した。それから十五年、八月まで六年、仙台に戻って二年、豊橋技科大に四年と、二〇世紀末の二〇〇〇年三月までは現役で過し、その後本当の隠居生活に入った。長い間の宮仕えのくせが抜け切らず、毎日が日曜日の生活をどう過すかに大分手間どったが、最近、漸く自分なりの道を見つけることができた様な気がしている。

その契機になったのは一つは健康状態である。勤めを止めたら世界中を自由に遊び廻って、など夢を描き、先ず身体をチェックを病院で検査した所、あちらこちらに具合の悪い所が見つかった。無理はいけない、遠くに旅行するのは止めなさい、高血圧が何より危険ということ、何事も穏やかに、というのが医者の指示である。隠居の身であるから静かに暮らすのは何でもないが、問題は何かをして日々を過すかということである。

私にはもともと趣味らしい趣味はない。家内と言わせると仕事に興味という。いわば、働き蜂時代の申し子である。強いて言えば、読書、旅行、絵画鑑賞(ただ見るだけ)である。結局、読書をしながら日々を過すのが一番自分にあっているようである。若い時から、乱讀、ツン讀と言われているが、これからは何か目標を持って、読書をしながら調べものをしてみようと思っている。

そのテーマとして選んだのが、「漱石と私の漱石論」で、その内容は、「夏目家のルーツ」甲州夏目原、「東北大学と漱石ゆかりの人々」、「漱石と科学・技術・くらし」である。しかし、漱石本は山程あって、その中で私らしきが出せるかどうか。それはあとのことお楽しみということにする。

電気・情報系の近況

会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。人事異動などを含めて、電気・情報系学科の最近の状況を紹介します。

平成十四年四月から、工学研究科独立専攻として技術社会システム専攻が新たに発足しました。十三年二月の電子・応物系の新館落成に引き続き、十四年七月には、電気・情報系本館の六階から八階までの改修が完了し、八月中旬には応用物理学科の教官全員が移転し、名実ともに電子・応物・情報系が一体化されました。着実に研究環境の改善が進んでおりますが、応用物理学科棟の改修や情報科学研究科の新棟が建設されるまでは、研究室スペースの全体的な拡張は望めません。

「新世代情報エレクトロニクスシステムの構築(代表者 内田龍男教授)」が十月に採択決定され、現在、教育システムに重点をおいた事業を鋭意実行中でありま。

大変喜ばしいことに、十月九日に電気工学科卒業生の田中耕一氏のノーベル学賞受賞決定が発表され、十月末に、東北大学表彰訪問名譽博士号授与、十五年一月一日からの客員教授就任と「先端ライフサイエンス」客員講座開設、三月十九日の学術講演会などの要請・受諾と、三月十九日の出来事が続きました。さらに、西澤潤一先生におかれましては、二〇〇四年に「西澤メダル」が創設されるといふ栄誉に浴され、秋の叙勲で我が国の学術振興に貢献されたご功績により勲一等瑞宝章を受章され、十二月に東京、盛岡、仙台で祝賀会が盛大に挙行されました。心からお祝い申し上げます。

十一月六日から電気・通信工学専攻の宮城光信教授が新工学研究科長に選任され、吉本高志新東北大学総長のもとに、十六年度からの大学の法人化に向けて教育・研究組織の大変革を断行中でありま。二十一世紀に相応の努力を大学にしております。会員の皆様一同のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成十四年三月、電気・情報系から二二〇名の学部学生が卒業し、また、大学院工学研究科および情報科学研究科博士課程からは、前期課程一九五名、後期課程四十五名が修了し、社会に巣立って行きました。十四年四月には新たに学部学生(三年次)二二三名(編

入学生十五名含む)、大学院前期課程二一八名および後期課程五十名の新生を迎えました。このなかには社会人大学院生を二十五名(前期課程一名、後期課程二十四名)が含まれております。以上のほか、十六名の十月入学大学院生が加わりま。

十四年三月、大見忠弘教授が定年によりご退官されました。大見先生は半導体分野で輝かしい業績を挙げられ、本系の発展に多大な貢献をされました。先生の長年に亘るご尽力に心から感謝申し上げますとともに、ますますのご健康とご活躍をお祈り致します。なお、同年一月には未来科学技術共同研究センター(ZOHE)において、大見先生のご尽力で完成した未来情報産業研究館の式典が遠方下部科学大臣、尾身科学技術担当大臣の臨席の下に挙行されました。大見先生は、十四年四月より七月間、未来情報産業創製寄付講座の客員教授として日本の半導体の未来を開く産業創出のためにご尽力頂いております。

大学の運営に関しては、前年に引き続き、星宮望教授が副総長(十四年十一月五日まで)および工学教育研究センター長として本学の運営と全学教育の運営と改革に、また、山本光瑞教授が本学評議員として全学運営に、さらに、根元義章教授が情報シナジーセンター長として本学の情報インフラストラクチャの整備にご尽力頂いております。

次に、この一年間の主な人事異動をご紹介します。十四年四月には、電気・通信工学専攻先端電力(東北電力)寄附講座の客員教授として電力中央研究所の林敏之先生が赴任され、システム情報科学専攻の青木孝文助教授が情報基礎科学専攻教授に昇任され、情報科学研究科の羽生貴弘助教授が電気通信研究所教授に昇任されました。新しくスタートした技術社会システム専攻教授に電気・通信工学専攻の斎藤浩海助教授および電子工学専攻の須川成利助教授の二人が、また、同専攻助教授に電気・通信工学専攻の石芸尉助手が昇任されました。さらに、電気・通信工学専攻の大町真一郎助教授は技術社会システム専攻助教授に配置換えになり、電子工学専攻の高橋研教授は本年度から五年間配置換えになり、未来技術共同研究センター教授として活躍の予定です。また、電気・通信工学専攻では、十三年十月N.T.T未来ねっと研究所から工藤栄亮助教授を、また、昨年四月に山形大学工学部から伊藤彰則助教授をお迎えすると共に、郭海蛟助教授が七月から任期満了して再任されました。

一方、十四年三月に電子工学専攻の併任教授の安浦寛人九州大学教授は任期満了で退任されました。本学に在任中の研究・教育の労力に対して感謝申し上げますとともに、今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。